

## カフェ利用行動からみた都心カフェの経済効果

丸木貴博 草場香織

吉屋祐子 森下裕子 牛島啓太 木村信介

### 1. ねらいと目的

近年、スターバックスやシアトルズベストといったカフェの出店が相次いでいる。これらのカフェは、旧来型の喫茶店とは異なり、安価なコーヒーの提供とともに、おしゃれで気軽に立ちよれる雰囲気のお店作りとなっている点が特徴である。

消費者行動に着目したとき、消費者は、気軽に都心カフェに立ち寄り、ゆったりとした空間でコーヒーを飲み、買い物での疲れをいやしたうえで、次の買い物へと訪れる。このように、カフェに立ちよった消費者はカフェでのリフレッシュ効果により、カフェに立ちよらない消費者よりも多くの買いまわり行動が可能となる。とすれば、カフェに立ちよらない消費者よりもより多く買いまわった回遊途上での支出額の増分は、カフェ利用による都心部への支出増大効果といえるはずである。([1]) 本研究のねらいは、カフェ利用によって延びた回遊ステップ上での支出額をもって、カフェ利用による都心部への需要創出効果ととらえ、これをカフェ立地の都心部へ及ぼす経済効果と定義し、実際にこれを計測しようとするところにある。しかし、これまでに都心カフェがどのような役割を果たしており、消費者行動にどのような影響を与えているのか、さらには、回遊行動の観点からカフェ利用が都心部全体へもたらす経済効果を計測しようとする試みは皆無であった。

本研究のねらいは、第6回福岡都心部消費者行動調査にカフェに関する質問項目を組み込み、カフェ利用にかかわる回遊行動データを収集することで、これに答えようとすることであり、その目的は、カフェの利用行動特性分析や都心部の市場規模の推計からさらに一歩踏み込み、福岡都心部消費者行動調査に含まれる回遊行動履歴データを用いて、消費者回遊行動の観点から都心カフェがもたらす福岡都心部への経済効果を推計することである。

以下私たちは、都心カフェを“都カフェ”と呼ぶことにする。

### 2. カフェ利用行動からみた都心カフェの経済効

### 果の考え方

第6回福岡都心部回遊行動調査の分析データを用いて、都心カフェの福岡都心部への経済効果を推計する。

#### 2-1. 福岡都心部回遊行動調査

本研究では、2001年6月15日(金)、16日(土)、17日(日)の3日間、福岡大学都市空間情報行動研究所、福岡大学経済学部齋藤研究室、福岡大学経済学部梶井研究室、フィールド調査受講生が福岡都心部で実施した第6回福岡都心部回遊行動調査の調査データを使用している。福岡回遊行動調査は、毎年定期的実施しており、今年で6回を迎えた。都心部回遊行動調査とは、都心部に複数の調査地点を設け、都心部に訪れた来街者をターゲットに渡り歩きである回遊行動履歴を聞くアンケート調査である。主な調査項目は、調査当日の都心部内での回遊履歴のほか、回答者の個人属性、福岡都心部への出向頻度などである。

回遊行動履歴は、回答者の調査当日の立ち寄り場所を、そこでの目的、支出額とともに生起順に聞いている。第6回福岡都心部回遊行動調査では、調査地点を都心部の9ヶ所に設定し、従来の調査項目に新しくカフェに関する調査項目を追加した。

その調査項目内容は、回答者全員に都心カフェの認知度、都心カフェへの出向比率など、カフェに立ちよった人には、立ちよった目的、滞在時間などまで詳しく聞いている。この調査では、1191票の有効サンプルを獲得した。うち、カフェに立ちよった人の票は、170票であった。調査時間は、午前11時から午後7時までの8時間である。

### 3. カフェ利用者の1ステップあたりの平均支出額

ここでは、第6回福岡都心部回遊行動調査のデータを用いて、都心カフェが、都心部での回遊行動を多く引き起こす要因となっているかどうかみるために、カフェの利用者と非利

用者の福岡都心部での回遊行動の比較を行った。

3-1-1. カフェの利用者とカフェの被利用者との平均回遊ステップ数の比較

3-1. 平均回遊ステップ数

ここでは、都カフェ利用者と非利用者との平均回遊ステップ数の比較を行う。

表 3-1-1 は、カフェ利用者と非利用者の平均回遊ステップ数を比較したものである。

表 3-1-1 都カフェ利用者と非利用者の平均ステップ数

	有効サンプル数	パーセント	平均
カフェ利用者	170	14.4	5.10
カフェ非利用者	1013	85.6	4.03
全体	1183	100.0	4.20

都カフェ利用者の有効サンプル数は、全サンプル 1183 人中 170 人で、平均ステップ数は 5.10 回、カフェ非利用者の有効サンプルは、1013 人、平均ステップ数は 4.08 回である。

全体では、平均ステップ数は、4.20 回である。利用者と非利用者の平均回遊ステップ数を比較すると、カフェ利用者の方が、若干多く、その差は 1.02 回だとわかる。

3-1-2. カフェの利用者が、カフェ利用後に回遊した平均回遊ステップ数

	有効サンプル数	平均
カフェ利用者	170	1.89

表 3-1-2 は、カフェ利用者が、カフェを利用した後に回遊した平均回遊ステップ数を求めたものである。

表 3-1-2 カフェ利用後の平均回遊ステップ数  
カフェ利用者のカフェ利用後の平均回遊ステップ数は、1.89 回であった。

時点別の、カフェ利用者の平均回遊ステップ数

表 3-1-3 は、カフェ利用が回遊行動に与える効果を詳しく分析するために、カフェを回遊始前、回遊途中、回遊終了後のどの時点で利用したか、の利用時点別に、カフェ利用者の平均回遊ステップを求めたものである。

3-1-3. カフェを回遊の開始前、回遊途中、回遊終了後のどの時点で利用したか、の利用

表 3-1-3 カフェの利用時点別平均回遊ステップ数

	有効サンプル数	パーセント	平均
回遊の最初にカフェを利用した人	33	19.4	2.82
回遊途中にカフェを利用した人	91	53.5	5.30
回遊の最後にカフェを利用した人	46	27.1	2.98

回遊開始前の平均ステップ数は、2.82 回、回遊途中での平均回遊ステップ数は、5.30 回、回遊終了後の平均回遊ステップ数は、2.98 回となっており、回遊途中でカフェを利用した人の平均回遊ステップ数が一番伸びていることがわかる。

3-1-4. 回遊途中でカフェを利用した人のカフェ利用後の平均ステップ数

表 3-1-4 は、回遊途中でカフェを利用した人のカフェ利用後の平均ステップ数である。

表 3-1-4 回遊途中のカフェ利用者のカフェ利用後平均回遊ステップ数

	有効サンプル数	平均
回遊途上でカフェを利用した人	91	2.52

回遊途上で都カフェを利用した人のカフェを利用した後の平均ステップ数は 2.52 回であった。

いない人の 1 回遊ステップあたりの平均支出額

表 3-2-1 はカフェを利用した人と利用していない人の 1 回遊ステップあたりの平均支出額を求めたものである。

### 3-2. 1 回遊ステップあたりの平均支出額

#### 3-2-1. カフェを利用した人とカフェをして

表 3-2-1 カフェ利用者と非利用者の 1 回遊ステップあたり平均支出額

	平均
カフェ利用者	1019
カフェ非利用者	849

カフェ利用者の 1 回遊ステップあたり平均支出額は 1019 円、非利用者は 848 円であった。ただし、カフェでの支出と 10 万以上の高額な支出をしているサンプルを除いている。

表 3-2-2 は、都カフェの利用が支出に与える効果をより詳しく分析するために、都カフェについてカフェの利用時点別で平均支出額を求めたものである。

#### 3-2-2. カフェの利用時点別での平均支出額

表 3-2-2 カフェ利用者の利用時点別 1 回遊ステップあたり平均支出額

	平均
回遊の最初にカフェを利用した人	569
回遊途上でカフェを利用した人	1213
回遊の最後でカフェを利用した人	1068

平均支出額は、回遊の最初にカフェを利用した人が 568 円、回遊途上での利用者が 1212 円、回遊の最後でカフェを利用した人が 1067 円となった。一番大きいのは回遊途上でカフェを利用したものである。

#### 3-2-3. 回遊途上でのカフェ利用者のカフェ利用後の 1 回遊ステップあたりの平均支出額

表 3-2-3 は、回遊途上でのカフェ利用者のカフェ利用後 1 回遊ステップあたり平均支出額を求めたものであり、それは 1173 円となっている。

表 3-2-3 回遊途上でのカフェ利用者の利用後 1 回遊ステップあたり平均支出額

	平均
回遊途上でカフェを利用した人	1173

## 4. 都カフェの経済効果の推定

第 6 回福岡都心部回遊行動調査の分析データを用いて、都カフェの福岡都心部への経済効果を推計する。

(注) 都カフェを利用したものの中には、ファーストフード店、ファミレスでの喫茶等も含み、都カフェを利用したものとする。

### 4-1. 経済効果推定の考え方

(a) カフェの利用によって都心部での回遊ス

テップ数を増加させる。

(b) 都カフェが都心部にもたらす経済効果を、この回遊途上でカフェを利用した来街者が、回遊ステップ数を伸ばし、その伸ばしたステップ上で都心部に落とした購買額と定義する。

以上より都カフェの経済効果を推定するためには、以下の 3 つの計測が必要である。

(1) カフェ利用者数、(2) 1 回遊ステップあたりの購買額、(3) 回遊途上で都カフェを利用し

た人が回遊ステップを何ステップ増加させたのか。

#### 4-2. 推定結果

##### (1)都カフェの利用者数

表 3-1-1 よりカフェ利用者の有効サンプルは、170 人、全体は 1183 人であり、来街者のうち都カフェ利用者の割合は、14.4%である。そして、参考文献[3]より、都心部への入り込み者数は、回遊行動調査から推定した 231265 人である。よって、カフェの利用者数は、32377 人となる。

$$32377(\text{人}) = 170(\text{人}) / 1183(\text{人}) \\ \times 231265(\text{人})$$

##### (2) 1 回遊ステップあたりの購買額

表 3-2-3 より回遊途上でのカフェ利用者のカフェ利用後 1 回遊ステップあたりの平均支出額は、1173 円である。

##### (3) カフェ利用者の中で回遊途上でカフェを利用した人の比率

表 3-1-3 より、回遊途上でカフェを利用した人は 91 人であり、表 3-1-1 より、カフェ利用者は、170 人であったので、回遊途上でカフェを利用した人の比率は、0.54 である。

$$91(\text{人}) / 170(\text{人}) = 0.54$$

##### (4) 回遊ステップ数の増加

表 3-1-4 より回遊途上でカフェ利用者のカフェ利用後平均回遊ステップ数は、2.52 回である。

##### (5) 都カフェの経済効果

以上より、都カフェの経済効果は、

$$186 \text{ 億 } 9,909 \text{ 万 } 932 \text{ 円} = 32377(\text{人}) \times \\ 1173(\text{円/ステップ}) \times 2.52(\text{ステップ/人}) \times \\ 0.54(\text{人/人}) \times 365(\text{日})$$

となった。

#### 6. 結論と今後の課題

本研究では、福岡都心部における都カフェの経済効果を消費者のカフェ利用行動から分析したものである。その結果として、都カフェが 186 億の経済効果を生み出していることを初めて実証することができた。では、今回この研究で推計された経済効果が、小規模な都市においても同じように生み出されているのであろうか。これからの研究の課題として大都市における都カフェと小都市における都カフェの違いに着目し、それぞれにおける都カフェの違いを実証していきたい。

#### 参考文献

[1] 齋藤参郎・山城興介(2000)「回遊行動からみた都心 100 円バスの経済効果の推計 福岡都心部におけるケーススタディ」第 37 回日本地域学会年次大会学術発表論文集、110 - 117 ; 『地域学研究』第 13 巻掲載予定

[2] 吉屋・森下・牛島・丸木・草場・木村「都心カフェの立地動態と利用者の利用行動の特性分析」本梗概集所収

[3] 齋藤参郎・福岡大学経済学部斎藤研究室編『福岡都心部回遊行動調査 地下空間と日韓都市魅力比較に焦点をあてて』, 2000, (財)福岡都市科学研究所